カトリックさいたま教区サポートセンター

ボランティア活動報告③

第１３チーム・２０１１年6月２３日（木）～２８日（火）

■湯本サポートステーション（福島県いわき市）

（シスター１人、信徒女性２人、計３名）

現地到着日の木曜日には、湯本ステーションの常駐スタッフに被災地を案内された。土地があっても家を建てることができないなんて…。久ノ浜の津波の被害を見て、日本人は先祖からの土地を大切にしているので、先祖から受け継いだ土地を手放すことは精神的に大変なことだと思った。「母が作った庭です。壊さないでください」という看板を見た。津波で流され、何も残っていないので、その方の生きていた少しの痕跡でも残しておきたいという気持ちが伝わってきた。

金曜日には避難所をまわって傾聴をし、小名浜教会にて支援物資の仕分けを行った。避難所の体育館はダンボールで壁が作ってあり、ほかの方と話をする機会が少ない。避難所を何ヵ所も移動しなければならず、大変そうだった。支援物資の仕分けが想像以上に大変だった。物資の支給の際、本当に物資が必要ではない人が取りに来る。それを見分けることも出来ず、排除することも出来ず、悲しかったという話を聞いた。現在の避難所には人が少ない。避難所が閉鎖されることが決まっており、仮設住宅へ引越す準備を進めている。そこでまた新たなニーズが出てくるのではないかと思われる。

その後の活動は傾聴、地元の方々との交流、湯本ステーションの掃除、物資仕分けのリスト作りなどを行った。最終日の月曜日には２グループに分かれ、一方は傾聴をしに避難所となっている公民館などをまわり、もう一方は社会福祉協議会に赴き、四ツ倉での個人住宅でのがれきの片づけを行った。

ボランティア派遣窓口からのお知らせ

前週から、大阪の小教区から湯本ステーションへのボランティア派遣（週交代で２名）が始まりました。ステーションでのボランティアのための食事作りなどを中心に、協働していく体制となります。

第１４チーム・２０１１年6月３０日（木）～7月５日（火）

■湯本サポートステーション（福島県いわき市）

（シスター３人、信徒男性１人、信徒女性１人、計５名）

現地に到着してから、常駐スタッフの神学生の引率で被災地５か所を巡る。それぞれの場であまりにもひどい崩壊した家屋、建物に唯々驚く。映像を通してではなく、実際に現場を目の当たりにして、本当に何ができるか。微力ながらも地元の方々の力になりたいと思った。地震による崩壊家屋、建物などを何台かのブルドーザーが撤去中であった。

次の日には避難所となっている平体育館で、傾聴ボランティア「お話し相手ボランティア」の方々の説明を聞きながら、訪問活動を始める。平体育館 69 名中、ほとんどが不在であった。次に控えている移動に向けての準備に出かけているらしい。

避難所は６月 30 日に閉鎖が決まっていたが、引越先が決まらない人々のために現在も受け入れているが、炊き出しなどは行わない方向になっている。完成した仮設は７割くらい入居している。仮設住宅に湯本ステーションのちらしをポスティングしている。

湯本教会の信者方の指示に従って、やがて撤去される聖堂のすべての物品を仕分け、運び出す作業。７月 17 日の閉堂式を目前にして、60 年の歴史を閉じねばならぬ信者方の心中が痛く察せられた。年代それぞれの記憶がよみがえってきたことと思う。

高久第一仮設住宅の入居状況だが、40～50%、勤めのため日曜日に引越という方もあった。家族構成はまちまちだが、訪問宅の中では一人暮らしは少ないように感じた。お年寄りと息子３人、また、また５人、６人家族の方もあり、「狭い」と嘆いていた。

避難所での炊き出しがなくなり、お弁当の食事に高齢者は暑さと共に食欲減。仮設住宅で落ち着いてくると昼間一人で留守番をしていると知人、友人の死、今後のことをどうしても考えてしまうという婦人多し。また一人暮らしの高齢者は集まるところがほしい、ともらしていた。

カトリックさいたま教区サポートセンター　さいたま教区事務所内　〒330-0061　埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-12
センター連絡先: 090-9972-4946　／　TEL:　048-831-3150　FAX:　048-824-3532

●２０１１年7月2日（土）

■ボランティア感謝の集い（教区事務所）
（サポートセンターと教区ボランティア）

テーマ『喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい』(ローマ 12:15)のもと、今までボランティアに派遣された方々が集まり、報告会・分かち合いが行われた。

最初に谷司教の挨拶。ボランティアへの感謝を述べ、今後の活動の展望について話された。続いて、仙台ボランティアに行ったシスターアナの報告と湯本ステーションの DVD 上映。この DVD の内容は、トアン助祭とホアン助祭が、被災地の被害状況やいわき市を拠点に行った炊き出し支援などを撮影したもの。

午後はグループに分かれての分かち合い。ボランティア活動の中での出会いや気づき、どのような思いで支援に関わったかなどについて自由にわかちあった。

感謝ミサでは一人ずつが祈りをこめて、それぞれの力と心のシンボルであるボランティアの名札を奉納した。長期にわたるこれからの活動を神が祝福し、被災者と共に歩もうとする仲間を力づけてくださいますように！

第１５チーム・２０１１年7月7日（木）～7月１２日（火）

■湯本サポートステーション（福島県いわき市）
（シスター２人、信徒男性１人、司祭１人、計４名）

現地到着日の木曜日は被災地をまわり、チームで夕食の準備をして、夕食をいただきながら、明日の予定を話し合う。次の日は、傾聴ボランティアグループ「みみ」とミーティングをする。今まで傾聴しに訪問していた平体育館が７月 18 日に閉鎖となるため、傾聴よりまず行先の確認作業を優先することになった。

次の日の金曜日、避難所が閉鎖になるため被災者各々に御礼とお別れを伝える。避難所に住む人の数はすでに少ない。一時間で終了、仮設住宅に向かう。いわき公園内で昼食、休憩、午後一時より調査、傾聴を始める。

土曜日は、傾聴ボランティアグループと片付けグループの二つのグループに分かれ、数人が常駐スタッフと残り、教会の信徒とともに聖堂の片づけを行った。日差しが強く、非常に暑い日で終日大変な作業だった。他方の傾聴ボランティアは市民会館で９時半過ぎから傾聴を始める。在所者は１９人。土曜日で、男性・児童の姿もみられた。待遇（特に食事）に、他とはっきり差別されていると感じていて、そのことについてこまごまと語られる。１０時５０頃、南の森スポーツセンターで傾聴開始。午後１時２０分ころから中央台高久の仮設住宅で傾聴開始。日影がなく、照り返しと薄い屋根の住宅は今日のような暑い日は特にしのぎにくいと思う。実際、入居者の方から暑くて苦しいという声を聴いた。

日曜日の午前中は２階小部屋の片づけ、段ボールの空き箱などぎっしり詰まった使わないものをすべて処分する。氏家神父司式のミサ後、３時半ごろに数人で仮設住宅に傾聴ボランティアに出かける。夕方雨が降り出して、車の中でしばらく待機していたが、止みそうにないので切り上げて帰る。

月曜日、傾聴グループは朝９時過ぎに出発し、仮設住宅に行く。３班に分かれて傾聴させていただく。それぞれ心に響くものがあった。４日目ともなると、少し緊張が解けているのが、相手に伝わるらしく、話を聞かせてくださることが多くなった。正午過ぎ、いわき教会に聖体訪問。２時ごろ「みみ」の方々と待ち合わせて、旅館で初めての傾聴。小高いところにあり、小名浜港が見下ろせる景色のいい旅館。原発の影響で避難している広野町の人たちだった。